








長雨・日照不足に対する農作物技術対策

令和3(2021)年9月3日

農政部経営技術課

週間天気予報によると、9月3日から9月8日頃までは、曇りや雨の日が多い見込みです。長雨と日照不足に対する技術対策を作成しましたので、農作物管理にあたっては、次の技術を徹底するよう指導願います。なお、農薬を使用する場合には、使用基準を遵守するよう指導願います。

栃木県の天気予報（6日先まで）							
2021年09月03日05時 宇都宮地方気象台 発表							
日付	今日 03日(金)	明日 04日(土)	明後日 05日(日)	06日(月)	07日(火)	08日(水)	09日(木)
栃木県	雨時々止む 	雨時々止む 	曇 	曇 	曇 	曇 	曇時々晴 
降水確率(%)	-/50/60/70	70/70/50/30	40	40	40	40	30
信頼度	-	-	B	B	C	B	C
宇都宮 気温 (℃)	最高	22	26 (23~28)	26 (23~28)	25 (22~29)	28 (25~32)	31 (28~34)
	最低	-	19 (18~22)	20 (18~22)	19 (17~21)	19 (16~22)	21 (19~23)
向こう一週間（今日から6日先まで）の平年値							
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温	
宇都宮	平年並 24 - 62mm			20.8℃		28.9℃	

I 普通作物

1 水 稲

- (1) 出穂期後7月末から8月上旬までの高温、8月12日から18日までの日照不足および断続的な降雨に伴う玄米水分の変化により、胴割粒が発生しやすい条件となっている。刈り遅れは胴割粒の他、着色粒、発芽粒等の発生も増加させることから、適期収穫に努める。
- (2) 水温が低い地域等で水口付近の生育が大幅に遅れている場合は、刈り分けを行う。
- (3) 降雨、倒伏等により高水分籾を乾燥機に張り込む場合、2～3時間通風乾燥を行い、低い温度（35℃程度）から逐次昇温し乾燥を行うなど、きめ細かな対応を行い、胴割れ防止に努める。

なおコンバイン収穫作業時に詰まったワラを取り除くときには、巻き込まれ事故を防ぐため、エンジンを止めて作業するなど、農作業安全に努める。

2 大 豆

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底して、立枯性病害の発生を予防する。
- (2) ベと病、紫斑病、白絹病が発生しやすいため殺菌剤の予防散布を行う。

3 こんにゃく

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) 腐敗病や根腐病が発生しやすいため殺菌剤の予防散布を徹底する。

II 野菜

1 野菜全般

- (1) 湿害をさけるため、ほ場周辺に排水溝や明渠を掘って、ほ場内が滞水しないようにする。
- (2) 曇雨天時の葉かきや芽かき等は極力控え、これらの管理は晴天時の午前中に行い、夕方には傷口が乾くようにする。
- (3) 曇雨天日が長く続くと茎葉が徒長気味となり、生理的落果や病害多発の原因となりやすいため、古葉は早めに取り、風通しと日当たりを良くする。
- (4) 殺菌剤の予防散布を徹底するとともに、かん水や追肥は多量に行わず、1回当たりの量を少なくして回数で調節する。
- (5) きゅうり・なす等は小果（S～Mクラス）で収穫し、株の着果負担を軽くする。

2 施設野菜全般

- (1) 軟弱徒長気味の生育となるため、ハウス屋根被覆の汚れを落とすなどして、採光を高める。また、曇天時は遮光資材を解放して、できる限り光線を当てるようにする。ただし、曇雨天後の強日射は軟弱に生長した植物体に高温障害、蒸散過多による萎れ等を引き起こすことがあるので、寒冷紗による遮光等、強日射・高温への対策を併せて準備しておく。
- (2) 灰色かび病等の病害が発生しやすい条件となるため、殺菌剤の予防散布を徹底するとともに、十分な換気を行い施設内の通風を図る。また、循環扇の活用により湿度低下に努める。

3 いちご

- (1) 育苗ハウスは、曇雨天時には遮光資材を解放するとともに、定期的な葉かきやポット等の間隔を広げる等の管理により、積極的に日光に当て株の充実を図る。ただし、曇雨天後の強日射は高温障害、蒸散過多による萎れ等を引き起こすことがあるので、遮光資材の活用等、強日射・高温への対策を併せて準備しておく。
- (2) 追肥は、肥料切れまたは多肥とならないよう生育に応じて行う。
- (3) 炭疽病、うどんこ病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (4) 花芽がバラツキやすいため、分化状況を随時確認し、適期に定植を行う。

4 夏秋なす

- (1) 全面マルチ栽培では、マルチ上への滞水を防止する。
- (2) 花や果実に光が当たるように整枝や葉かきを行う。
- (3) 菌核病、灰色かび病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

5 トマト

- (1) 育苗中の苗は、徒長防止のため、鉢の乾き具合を確認しながらやや控えめのかん水管理を行う。
- (2) 定植ほ場のかん水管理は、1回当たり多量に行わず、天候をみながら回数で調節する。
- (3) 草勢維持が必要な場合は、早めに不良果の摘果を行い株の着果負担を軽くする。
- (4) 灰色かび病、疫病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

6 にら

- (1) さび病、白斑葉枯病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

7 アスパラガス

- (1) 茎枯病、斑点病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

8 ねぎ

- (1) 植付け溝への滞水を防止するため、排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) 土入れ・土寄せは、土が降雨後の加湿状態で行わない。
- (3) べと病、黒斑病、さび病等の発生を未然に防止するため殺菌剤の予防散布を徹底する。

9 うど

- (1) 黒斑病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

10 キャベツ、ブロッコリー、レタス、ねぎ苗等

- (1) 苗が徒長しやすくなるので、かん水は培土の乾き具合を確認しながら控えめに行う。
- (2) ほ場への定植が遅れる場合は、肥料不足にならないよう、状況に応じて液肥や葉面散布等で追肥を行う。

11 キャベツ、ブロッコリー、レタス等

- (1) ほ場周辺に排水溝や明渠を掘って、ほ場内が滞水しないようにする。
- (2) べと病、黒腐病（キャベツ、ブロッコリー）、灰色かび病（レタス）等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

12 ほうれんそう

- (1) 苗立枯病やべと病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

Ⅲ 果 樹

1 果樹全般

- (1) 湿害をさけるために果樹園に排水溝や明渠を掘って、園内が滞水しないようにする。
- (2) 傾斜地では、土壌の流亡を避けるために草生栽培とし、当面耕運はしない。
- (3) 病害防除のため薬剤散布を行う際は、防除基準の遵守やドリフト低減に努める。

2 なし・りんご

- (1) 収穫期を迎えた品種は、品質劣化を防止するため、適期収穫を徹底する。
- (2) 輪紋病等の発生が懸念されるので、発生状況に応じて薬剤防除を行う。

3 ぶどう

- (1) 裂果した果房は、収穫時の選果選別を徹底し、腐敗果粒の混入に注意する。
- (2) 収穫期を迎えた品種は、品質劣化を防止するため、適期収穫を徹底する。
- (3) べと病が散見されているため、発生状況に応じて薬剤防除を行う。

IV 花 き

1 花き全般

日照不足による軟弱徒長で、品質の低下と灰色かび病等の発生が助長されるので、晴天時以外の遮光等は取り除き、できる限り日照を確保するとともに施設内の通気等を図り湿度を下げるように努める。

2 き く

- (1) 露地ぎくは、ほ場周囲に排水溝を整備し、排水に努める。
- (2) 露地ぎくは黒斑病、褐斑病等が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (3) 施設ぎくは、白さび病が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布に努めるとともに、病葉の摘除を行う等発生しにくい環境にする。

3 ば ら

- (1) べと病が発生しやすいため、湿度を下げるなど環境を整える。また、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (2) うどんこ病が発生しやすいため、窒素肥料の多用を避ける。また、枯れ葉を整理し、通風を良くするとともに、殺菌剤の予防散布を徹底する。

4 りんどう

- (1) ほ場周辺に排水溝を整備し、排水に努める。
- (2) 定植1年目の苗は葉枯病が発生しやすいため、降雨後に殺菌剤を散布する。
- (3) 花および茎に菌核病が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

5 シクラメン

- (1) 葉腐細菌病や萎凋病等が発生しやすくなるので、肥培管理を適正にし、暖房機の送風運転やヒートポンプを使用し湿度を下げるなど、病害の発生しにくい栽培管理に努める。

V 飼料作物

1 飼料用とうもろこし、飼料用稲

- (1) 圃場の土壌水分が高く収穫作業への支障が心配されるほ場では、排水等の対策を図り、作業の遅延による刈り遅れを防ぐ。
- (2) 日照不足により生育が遅れる場合が多いことから、子実の熟期をよく確認し、適期に収穫作業を開始する。
- (3) 高水分での収穫となった場合、酢酸発酵を防止するためにビートパल्प、フスマ等による水分調整を行う。また、乳酸菌など添加物を添加し、発酵促進させることで、発酵品質の向上を図る。
- (4) ロールベールなどは、パレットなどを敷台にしたり、水が溜まりにくい高台等に保管するなどして浸水を防ぐ。